



## 内容紹介

アウシュヴィッツ体験が生んだ医学的指導の古典。  
生命・死・苦悩・労働の意味をたずね、  
個人の独自の生命の発見にみちびく。

この本はアウシュヴィッツの地獄のなかから鍛え出された宝石のような書物である。

人生について、愛について、苦悩について、  
著者のことばを辿ってゆくならば、朝明けのような清々しさ  
で  
この本のもつ方向指示力、その治癒力を感得できるであらう。

1946年、第二次世界大戦の直後にウィーンで出版されたときの反響は驚くばかりだった。

これはフロイトの精神分析いらい、心理療法の世界に出現したもっとも重要な著作となった。

フロイトの「コンプレクス」アドラーの「劣等感」のような心理

レベルの現象への逃避に甘んずることなく、外面的・仮面的なものをのりこえて、人間の意志、その意味への志向に注目する。

すなわち人間の意識性と責任性という二つの根本事実を確認し、勇気と内的な強さを与える。

その豊かな思考方法、深い独創性は弁証法であり、詩的なリズムの文体と相まって、  
医師・心理家・教育者などにとって欠くことのできない書物となった。

## 著者について

ヴィクトール・E・フランクフル Viktor Emil Frankl

1905年ウィーンに生れる。ウィーン大学医学部卒。1955年以来ウィーン大学教授(神経学、精神医学)。実存分析、ロゴセラピーの創始者。ロゴセラピーは人間の意味への指向・その意志を重視し、深層における精神的実存的人間の発見を意図する療法である。1997年9月歿。

著書『夜と霧』『時代精神の病理学』『神経症——その理論と治療』『精神医学的人間像』『識られざる神』(以上、1961-62、みすず書房刊)

霜山徳爾

しもやま・とくじ

1919年東京に生れる。1942年東京大学文学部心理学科卒業。宗教哲学・心理学専攻。上智大学名誉教授。2009年逝去。

著書『人間の限界』(岩波新書、1975)『人間へのまなざし』(中公叢書、1977)『素足の心理療法』(みすず書房、1989、現在品切れ)『霜山徳爾著作集』(全7巻、学樹書院、1999-) 訳書 フランクフル『夜と霧』(1956)『神経症』II(1961)メダルト・ボス『東洋の英知と西欧の心理療法』(共訳、1972)(以上みすず書房)。